

㈱苫東 第14回経営諮問委員会の概要

1 日 時 平成22年5月25日(火) 13:30~14:50

2 場 所 札幌市中央区北3条西4丁目1 日本生命札幌ビル
(株)日本政策投資銀行北海道支店 大会議室

3 出席者 10名中9名出席

4 議題及び議事要旨

(1) 経営概況報告(平成21年度決算見込み等、株主還元、平成22年度事業計画について)

- ・21年度の損益見込み(売上高約13.6億円、経常利益約2.7億円)及び貸借対照表(期末預金残高約24.6億円)の見込みについて概要報告がなされた。
- ・株主還元については、21年度決算見込みから試算した結果、事業運営に必要な資金及び臨海臨港地区基盤整備資金等を留保した上で、4.5億円(400円/株)の株主還元を行いたい旨の説明がなされた。
- ・平成22年度事業計画・損益計画については、重点分野として従前の4分野に加え、新たにデータセンター、太陽電池、食関連産業の3分野をターゲットにして、分譲目標約4ha、総売上高約11億円、経常利益約1.1億円を目指す旨報告された。

(2) 環境重視型産業地域への取り組みについて

- ・今後の苫東開発の方向性を議論するために、近年の経済・社会環境や当社としての取組み等について説明がなされた。

これらの説明を受けて、次のような意見があった。

□今後は広大な土地を日本や北海道のためにいかに活用していくのか、アジアとの関係も含めてどのように展開していくのか計画の在り方を考える時期。

□関係機関との連携の下、用地分譲について重点分野を中心に引き続き努力して欲しい。

□ダブルポートと呼んでいる新千歳空港と苫小牧港の基盤整備が苫東のためにも重要。

□用地分譲やプロジェクトの推進に努力するとともに、アジア、特に中国との競争をにらんだ取り組みを考えて欲しい。

□苫東に特区を導入するなど、「新3K」と言われる新規成長分野に関して、苫東に呼び水の役割を与えていくべき時期。

□今まで苫東の良さを全国に向け不特定多数にPRしてきているが、今後は個別具体的にターゲットを絞って、企業を引っ張ってくる活動に入るべき。

□北海道は食のクラスターを本気で推進し、食の総合産業化を確立していく必要がある。

その中で苫東をどう活用していけるかがポイント。

□エネルギー関連の国際機関のプロジェクトなど海外も含めて対外的にアピールできるようなキラークンテンツが苫東に必要。

□北海道はアジア向けの食材輸出に取り組んでいるところだが、苫東は航空貨物、海上貨物とも地の利があり、後背地に当該産業にかかる集積を持てれば非常に意味がある。

□医療ツーリズムの議論もあるが、極東ロシアと北海道とのリンクは重要であり、そのために新千歳空港を苫東が生かす知恵が必要。

□食にかかるアジアからの留学生の研究拠点を苫東に誘致していくことなども検討すべき。

□苫東を魅力的なものにしていくためには高学歴のハイエンドを魅きつけるアメニティも必要。

□宇宙や航空に関する分野については引き続き検討すべき。

以 上